

## 令和5年度第2回青梅市美術館運営委員会会議録

日 時

令和5年9月19日（火） 午後2時00分～3時30分

会 場

美術館研修室

出席者

（委 員）

橋本委員長、佐川副委員長、吉原委員、白井委員、牧野委員、持田委員

（事務局）

橋本教育長、森田生涯学習部長、北村文化課長、田島美術担当主幹、小澤美術館管理係長、村上主任、河瀬主事

欠席者

（委 員）

塩野委員

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

4 協議事項

(1) 今後の美術館の運営や整備に関する方針（案）について（資料1、資料2） 事務局から説明 〈意見聴取〉

(2) その他

5 報告事項

(1) 美術館の改修工事に伴う休館について（資料3）

事務局から説明 〈了承〉

(2) 美術館の市役所展示の終了について（資料4）

事務局から説明 〈了承〉

(3) 特別展「生誕130年・東京都制施行80周年記念小泉癸巳男の《昭和大東京百図絵》で巡る～レトロでモダンな東京散歩～」の開催について（資料5） 事務局から説明 〈了承〉

(4) 共催展「アートビューイング西多摩2023”アート”を俯瞰する」  
の開催について（資料6） 事務局から説明 〈了承〉

(5) その他

6 その他

・教育委員会内会議録の様式統一について 事務局から説明 〈了承〉

・次回委員会開催日程調整 事務局から説明 〈了承〉

7 閉 会

〔主な質疑・応答・意見〕

○設備改修設計の進捗状況と変更点について

（委員）空調とエレベーターの改修設計の進捗状況と今後の計画の変更点  
について、分かりやすい説明をお願いしたい。

（事務局）当初、空調およびエレベーター設備の改修工事と照明設備の改  
修工事は、検討期間を考慮し、時期をずらして行う予定だった。し  
かしながら、全ての工事を令和6年10月以降の同じタイミングに  
実施できるように、照明設備と前回の委員会で指摘のあった高圧受  
電設備の設計業務を令和5年度の後半の1月以降から令和6年度の  
前半までに実施するため、予算を追加する予定である。ただし、設  
計結果によっては工事の延長や短縮の可能性もあるため、ご承知置  
きいただきたい。また、照明設備については既存の設計業者と調整  
中であるため、決定次第情報提供を行う。

○美術館の活動内容および施設改修に関する意見について

（委員）青梅市に住んでいても美術館に来たことがない人がたくさんいる。  
子供のうちから知っておくということが大切だと思う。出張展覧会  
や出前講座を行うなど、学校に足を運んでもらう機会がほしい。ま  
た、リニューアルオープンした際は、市の図工展や書写展、消防写  
生会なども美術館で展示できるようにしてほしい。

（委員）子供たちが様々な作品に触れる機会や、美術に関するいろいろな  
体験が出来る美術館になってほしい。青梅市として、どういう美術  
館にしたいのかはっきりと打ち出し、目標を掲げるのが良いと思う。  
市民の意見を取り入れても良いかもしれない。施設の改修について  
予算に限りがあるのであれば、寄付を募るなど何か手段を考えるべ

きだと思ふ。

(委員) 美術館に出入りがある人達が交流できる機会を持てると良い。美術館に人を動員するには横の繋がりが大切である。誰かが誰かを呼ぶスキームを作ると良い。

(委員) 成功している自治体の例を見ると、複合施設にするなど抜本的な見直しを行っている。部分的な改修を行って延命するよりは、もう一度理想を掲げて効率的な改善策を検討しても良いのではないか。今は建築ブームであり、面白い建築物は他県からも人が見に来る。美術館、郷土資料館、図書館など、たくさんの機能を1つに集約させた建物を新たに建てるのも面白い。

(委員) 3年間の休館期間中に市民と美術館をどう繋げるかが重要である。学校施設との連携など地道に行うべきである。

(委員) 美術館のファンをどう作るか。ファン層をどう広げるかが重要である。また、美術館の活動は調査研究や展覧会、普及事業や広報など多岐にわたるため、担当者が1人では行えない。地域社会に対し、美術館がどういう形で社会的な役割を果たせるかをしっかり定め、必要な人材や予算などを投入するべきである。

○今後の美術館の運営や整備に関する方針(案)について

(委員) 他の美術館ではキャッチコピーを掲げているところがある。キャッチコピーがあるとどういった美術館にしたいのか分かりやすい。

(委員) 周りを先導する美術館になって欲しい。鑑賞講座や実技講座、講演会などをもっと開催して欲しい。

(委員) 方針案を見ていると守りに入っているような気がする。

(委員) 老朽化した施設を対症療法的な直し方で維持するのではなく、10年20年後のあり方を見据えて覚悟をもって取り組まなければならない。

(委員) 他館ではキャッチコピーに掲げたものを確実に実行している。目標のためにこれから何をするのか具体的に盛り込んだ方が良い。また、収集方針が少し曖昧であり、もう少し具体的に記載すべきである。職員の配置についてもそうだが、友の会やボランティアの育成など、人材育成についても盛り込んだ方が良い。外部機関との親密な関係を築くことの出来る場に参加することも重要である。

(委員) 本日の各委員からの意見を事務局で盛り込み、整理いただき、今後引き続き検討することをお願いしたい。

閉会